



NPO 日本サプリメント協会

サプリメント指導士

(ヘルス・コミュニケーター)

第5期

養成講座のご案内

第5期生募集!

サプリメント情報は、流動的で不確定要素の多いものです。

信頼できる情報を得るためには、各分野の専門家との
交流ネットワークこそが重要だと考えます。

偏りのない情報を交換し、共有できる仲間が集う

「場」をこの講座で構築し、

受講後の交流・支援体制を

つくりあげます。

ここが、私たちの講座の誇れる特徴です。



医療従事者
に向けて

こんな方におすすめします!

- 生活習慣病への統合医療的な対応を考えている
- アトピーや認知症、がんなどの新たな取り組みを模索している
- 栄養指導、栄養療法を積極的に取り入れたい
- 医療従事者間の情報ネットワークを活用したい

NPO 日本サプリメント協会の宣言

嘘やごまかしのない情報を獲得するために、
私たちは2001年の設立時より堅持してきた、中立でリベラルな組織として
皆さまとともに、信頼に足る情報ネットワークを構築し、
情報の流れやあり方の変革を視野に、正直な活動を展開していきます。

第5期 サプリメント指導士（ヘルス・コミュニケーター） 養成講座募集にあたって

目 的

- 昨今、医療や保健の分野における栄養の役割が注目されていますが、その情報や解釈はさまざま、医療生活者および一般生活者に正しく伝えられているかどうかは疑問です。とくに生活習慣病の増大で、栄養に関する知識や情報を必要とする人々が増えているのに比べ、それを指導、アドバイスする専門家が不足している現状があります。なかでも、治療やケアをする立場にある医療従事者は、その社会的信頼も含めて、生活者に及ぼす影響は小さくありません。
- 本講座では、生活者の健康を担う指導者を育成するにあたり、臨床栄養をはじめとする多面的な情報や知恵を集めることにより、情報の真質を見分ける力や、個々人に対応した実践的なアドバイスのできる知識を習得できるよう、各専門分野に造詣の深い講師陣で構成しています。
- 今後、“健康支援者”としての役割は、社会のニーズとしてますます重要になってくるでしょうが、常に移り変わる情報の分析や、生活者の多様な要求に添えていくためにも、一人の知恵ではなく、集積した知恵を活用すべく、当講座において培う「交流ネットワークづくり」が確かな知恵となるよう、学びの「場」づくりを目指しています。

養成講座の特徴

- 1 少人数による
ゼミナール方式
- 2 講師陣や
受講者同士の
交流の場を構築
- 3 主催イベントや
執筆、講演など
社会活動の
参加機会の提供
- 4 資格取得後の
セミナー提供と
実践的なサポート

活躍する卒業生たち

卒業生のコメントから



王 瑞雲 第1期生 医師（2006年4月資格取得）

ここで学習させて頂いたお陰で、診療で少し自信ができて、助かっています。とにかく薬を出して「ハイ!。さよなら!」とはいかない時代。患者さんの話はできるだけ聞かなくてはなりません。そんな時、サプリメントの知識は大いに役立っています。多くの医療関係者のみならず、一般の人々が「自分の体は自分で治す!」つもりで知識を持ちたいですね。「無知ほど悲しい事は無い」と育った私です。「医の自立」（最近「セルフ・メデュケーション」と表現されていますが）はとても大切だと信じています。



澤登雅一 第1期生 医師（2006年4月資格取得）

2005年に開業したクリニックでは、病気になってからというマイナスの医療ではなく、より健康で楽しく長生きしていただくためのプラスの医療を提供しています。仕事柄、サプリメントの専門知識はありましたが、協会ではいろんな立場の方々の意見を聞けたのが良かったですね。とくに薬との相互作用や、健康被害へのリスク管理など、誰もが正しい知識を持てるよう、協会が発信する情報をどんどん活用していきたいですね。先ごろ、『人より20歳若く見えて、20年長く生きる!』という本を出版しましたが、これも講座の一つの成果です。



田辺伸悟 第1期生 医師（2006年4月資格取得）

養成講座で得た知識は、非常に役立っており、昨年、韓国の大学に招待され、講演した時も、他の演者がサプリメントと薬物の併用での問題点を質問され、戸惑っていた時、私が代わりに答弁する事ができ、感謝されました。また、日常の診療でも、内科医の処方に対してアドバイスできることが多々あります。

第5期 講座カリキュラム

●基礎講座

9月29日（土）場所:ふくい南青山291	開場・受付開始 13:30～		
講座を始めるにあたって、その特徴と目的について	後藤 典子	14:00～14:15	
特別講演:医療改革時代の病院経営マネージメント		14:20～15:00	
第1回 日米欧のニュートリション市場の動向	武田 猛	15:00～16:45	
第2回 “ビタミン外来”の実践から学ぶ進化する健康理論	佐藤 務	17:00～19:00	

9月30日（日）場所:南青山会館2号室			
第3回 法規制の歴史と今後、違法事例の評価	中嶋 茂	9:30～11:30	
第4回 人間栄養学の新しい観察と、栄養の利用効率	中嶋 洋子	13:00～14:50	
第5回 医薬品と食品、サプリメントの相互作用	早川 明夫	15:00～16:50	

10月20日（土）場所:ふくい南青山291			
第6回 生活習慣病対策における運動の効果	樋口 満	13:30～15:20	
第7回 生活習慣病の栄養対策と、脂質研究の最新情報	板倉 弘重	15:30～17:20	
フォローアップ講座 アンチエイジングの全貌と真髄	久保 明	17:30～19:00	

10月21日（日）場所:南青山会館2号室			
第8回 ビタミン・ミネラルの機能性と留意点	佐藤 章夫	9:30～11:30	
第9回 人気サプリメントの成分検証	浜田 璋子	13:00～14:50	
第10回 抗ガンサプリメントの実態とその用い方	福田 一典	15:00～16:50	

※先生方の予定により、講義スケジュールが変更になる場合もありますのでご容赦下さい。

●実践応用講座

11月10日（土）場所:南青山会館3号室			
第11回 統合医療における栄養療法の位置づけ	川嶋 朗	13:30～15:20	
第12回 抗酸化食品による生活習慣病予防	板倉 弘重	15:30～17:20	
難治性疾患の統合医療ケースレポート	丹羽 正幸	18:00～19:30	

11月11日（日）場所:ニッカウキスキービル1F			
第13回 健康情報の読み方と健康被害の実際	小内 亨	9:30～11:30	
第14回 サプリメントの製造と安全性問題	早川 明夫	13:00～14:50	
第15回 動脈硬化予防の栄養学的アプローチ	板倉 弘重	15:00～16:50	

12月8日（土）場所:南青山会館2号室			
第16回 ヘルスコミュニケートにおけるホメオパシーの知識	板村 論子	13:00～14:50	
第17回 アーユルヴェーダで診る健康と食養生	上馬場和夫	15:00～16:50	

12月9日（日）場所:南青山会館2号室			
第18回 検査データに見る栄養学的観察	足立香代子	9:30～11:30	
第19回 セルフケアにつながるカウンセリング方法	浜田 璋子	13:00～14:50	
第20回 ホリスティック医学とガンへのアプローチ	帯津 良一	15:00～16:50	

1月26日（土）場所:南青山会館3号室			
●認定試験			

日本を代表する講師陣が、対面ゼミナール方式で専門講座を受け持ちます。



板倉弘重

茨城キリスト教大学教授、元国立健康・栄養研究所臨床栄養部長
東京大学医学部卒業。カリフォルニア大学心臓血管研究所に留学。東大医学部助手、国立健康・栄養研究所臨床栄養部長を経て名誉所員。食生活の重要性を広く提唱するとともに、栄養素の不足を補うサプリメントの有効利用を啓発する。コレステロール研究の第一人者。日本サプリメント協会理事。



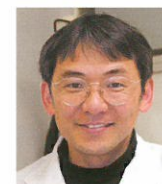
帯津良一

帯津三敬病院名誉院長
東京大学医学部卒業後、東京大学第三外科、都立駒込病院外科医長などを経て、帯津三敬病院を設立。また、2004年1月からは、ホリスティック医学を実践する。帯津三敬塾クリニックを新設し、同院長に就任。代替医療への造詣が深く、医療の東西融合という新機軸を基に、ホリスティックなアプローチによるガン治療を専門領域としている。「気功」の指導にも力を注ぎ、講演会も精力的にこなす。日本サプリメント協会顧問。



足立香代子

せんぼ東京高輪病院栄養管理室長
中京短期大学家政科食物栄養専攻卒業。管理栄養士。チーム医療における臨床栄養指導の実践を広く啓発するとともに、栄養士のマネージメントや検査値に基づいた栄養指導などを提唱する。その実績を評価され、都知事賞や厚生労働大臣賞など多くの賞を受賞。



川嶋 朗

東京女子医科大学附属青山自然医療研究所 助教授
北海道大学医学部卒業。東京女子医科大学第4内科入局。1993年～1995年 Harvard Medical School&Massachusetts General Hospital留学。東京女子医科大学腎臓病総合医療センター、成人医学センターを経て現在に至る。腎臓病の専門医だが、近代西洋医学と代替・相補・伝統医療を統合した医療を実践している。ダイエットからうつ病やガンまで、幅広い治療に取り組む。日本サプリメント協会理事。



中嶋 茂

食の効能普及全国会議議長、元厚生省、農林水産省
鹿児島大学大学院（食品科学専攻、農学修士）、厚生省入省。食品関連法令等の作成、諸基準設定、健康食品問題、機能性食品対策等に携わる。その後、農林水産省へ出向、ダイオキシン問題、クロロゲン酸問題等を担当。現在、食の効能普及全国会議議長、食の効能評価学術研究会専務理事、日本サプリメント協会理事等。



樋口 満

早稲田大学スポーツ科学学術院教授
東京大学大学院教育学研究科修士（教育学博士）、国立健康・栄養研究所にて研究員、室長、部長を経て、現職。健康増進・加齢に関する運動生理・生化学的研究、スポーツ栄養・生化学に関する研究を行っている。アメリカスポーツ医学会・日本栄養改善学会などの評議員、日本体育協会医・科学専門委員会委員。

板村 論子

帯津三敬塾クリニック院長
皮膚科専門医。心身医学会認定医。2003年、第1号の日本ホメオパシー医学会専門医（MFHom）取得。日本ホメオパシー医学会理事。安易なホメオパシーの流布に警鐘をならす。

佐藤 務

虎門会稲毛病院 整形外科・健康支援科部長
専門は整形外科医だが、栄養学を基本とした新しい統合医療を「健康支援科」として展開する。日本人特有の食文化を重視した栄養理論を提唱し、健康の自己管理を指導している。

丹羽正幸

丹羽クリニック院長
難病治療を志して、東洋医学やアーユルヴェーダなどを研鑽し、現在は栄養療法を取り入れた独自の治療法でアトピーをはじめとした難治性疾患に取り組む。

佐藤章夫

栄養医学研究所所長
臨床栄養士、ホリスティック栄養士。米国Orange County Health Science Institute、ドイツMicro Trace Mineral Research Centerの研究員。子供の栄養についても造詣が深い。

中嶋洋子

聖徳大学大学院人間栄養学教授
国立栄養研究所において、栄養病理および成人栄養の研究にたずさわる。その実績を評価され、栄養改善関係功労者表彰「栄養士養成功労者」厚生大臣表彰を受ける。

小内 亨

おない内科クリニック院長
内科専門医、糖尿病専門医として日々の臨床から考える健康食品や民間療法、ダイエットについての情報を、サイトや著書を通して広く一般に啓発している。

浜田璋子

笹塚クリニック主席研究員
専門は食品化学。1972年より、「サプリメント」の開発に従事。血液ライブ観察技術修得。LCA血液細胞分析の技術を活かしたカウンセリングを得意とする。

久保 明

高輪メディカルクリニック院長
東海大学医学部教授、日本抗加齢医学会理事。「サプリメントドック」「ビタミンドック」などで、エイジングの医学的診断と治療を提唱し、サプリメントを取り入れた生活を指導する。

上馬場和夫

富山県国際伝統医学センター次長
西洋医学と東洋医学の融合をめざして、研鑽を積む。特にアーユルヴェーダの脈診に関する現代医学的研究では本場インドの大学からゴールドメダルを授与される。

早川明夫

（株）皇漢薬品研究所 学術調査室
主にハーブや漢方薬に関する研究を専門とし、評論も多い。毒性や副作用などのリスク情報に関しても、常に学術的な立場から意見提供し、正しい知識の啓発に努めている。

福田 一典

銀座東京クリニック院長
国立がんセンター研究所において癌予防のメカニズムおよび漢方薬を用いた癌予防の研究を行なう。現在、漢方やサプリメントを用いたオーダーメイド医療に取り組む。

武田 猛

（株）グローバルニュートリショングループ代表取締役
MBA取得。大手製造会社及び販売会社において、新事業開発、新商品企画・開発、海外業務等に従事。その経験をもとに、現在は海外企業の日本市場参入や、国内企業の海外市場進出の支援を行う。